SINAPIS

社会活動センター・シナピスは平和を実現する使命に向けて生きる人びとを応援します

月刊シナピスニュースレター

Vol. 83

2023.04

年間テーマ　～ 平和を目指してともに歩もう ～

今月のテーマ

「暴力に打ちかつ」

タイトル：

「再会」

作：柳川　健さん（13歳）

第1回シナピス主催絵画コンテスト

シナピス賞受賞作品

地上でもっとも小さいといわれている種子、
それがシナピス（からし種）です。
イエスは神の愛がすべての人におよび、
互いに尊重し合い、
愛し合うように願って平和の種をまき、
やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると
約束しました。

カトリック大阪大司教区
社会活動センター・シナピス
TEL/06-6942-1784　FAX/06-6920-2203
Email/sinapis@osaka.catholic.jp
ホームページ/https://sinapis.osaka.catholic.jp/

巻頭言 プーチンもゆるすべきか？

～暴力に打ち勝ちながら 平和を目指してともに歩む一年に～

社会福音化部部門長　酒井俊弘補佐司教

シナピスの 2023 年度の年間テーマは「平和を目指してともに歩もう」で、4 月のテーマは「暴力に打ち勝つ」です。昨年 2 月から始まったウクライナ紛争がいまだに続いている中、この二点に異議を唱える人はいないでしょう。平和を目指す取り組みは、同じ志を持つ人たちと力を合わせていくことは当然なのですが、同時にキリスト者としてのアイデンティティを忘れてはなりません。同じ目標であっても、私たちはキリスト教的に取り組んでいるかどうかを、いつも自問することが大切です。たとえば「私たちはプーチンをゆるすべきか？」です。

私たちが迷うとき、答えはいつもイエス様にあります。司祭や修道者が祈る「教会の祈り」には毎日読書があり、古代から現代までの名文が登場します。聖エルレッド修道院長による『愛の鏡』からの一文は次のようにイエス様の振る舞いを解説しています。

「主は、ご自分に唾を吐きかける不敬虔な人々にそのうるわしい顔を向けられたし、単なる目くばせだけで世界を治める身でありながら、不義の人々から目隠しされ、胴は鞭で打ちたたかれ、支配と権威と呼ばれる霊から恐れられるその頭には茨のとげの冠をかぶせられ、あらゆる侮辱と悪口雑言に身をさらされることをお許しになった。さらに、深い忍耐をもって、十字架、釘、槍、胆汁、酢などを受けられたが、その間にも柔和と心の平和を保ち続けておられた。…柔和と愛、しかも何ものにも乱されることのない平和に満ちた主の祈り、すなわち、『父よ、彼らをおゆるしください（ルカ 23:34）』との感嘆すべきことばを耳にするとき、深い愛をこめ、一刻も早く自分の敵を抱擁しようとしない者が果たしているであろうか」

イエス様は「彼らの行い」をゆるしたのではなく、その行いがあまりにひどいことを認めつつも、「彼ら」をゆるすよう父に願いました。罪は謝罪や償いによってしかゆるされないけれども、罪人である「人」は常にゆるし受け止められるべき存在なのです。

プーチン大統領がしている蛮行をゆるすべきではありませんが、同じ神の子である彼をゆるすべきであり、こう祈るべきでしょう。「彼をおゆるしください。そして罪を犯さないように回心させてください」と。

「剣を取る者は皆、剣で滅びる」（マタイ 26:52）と言われたイエス様に倣って、暴力に打ち勝ちながら平和を目指してともに歩むために、この一年間、ゆるしと対話を大切にしていきましょう。

今月のページ

ニュースレター 目次

1　巻頭言
2　子どもたちに伝えたい平和
3　【最終回】子どもの本で平和をつくる
4　アフガニスタン人団体 JASA
5　障がい者委員会より
7　時報 4 月号より
13　ちょっと、聞いて！
14　祈りの集い報告
15　シナピスホーム便り
17　みんなのけいじばん
19　あとがき

チラシ・ご案内

・シナピスの風
・4月の祈り
・わすれないあきらめないカレンダー
・入管法改悪反対キャラバン＆デモ案内
・入管法オンラインセミナー案内
・「アジアから問われる日本の戦争」展2023

年間テーマ

～互いに耳を傾けよう～

これは教皇フランシスコが数々のメッセージの中で、私たちに何度も呼びかけていることばです。身近なことから世界に至るまで、互いを思いやれないことで生じる衝突が後を絶ちません。この言葉を受け、交わりを通して互いを理解し尊重しあえる平和の実現を目指します。このニュースが皆さまといっしょに考え、わかちあいの場となることを願っています。

子どもたちに伝えたい平和

いのちを守るのは、武器ではなく対話です。
対話で橋をかけましょう！

カトリック仁川教会　　土器屋（どきや）　香代子（かよこ）

私自身、ベトナム戦争関連の「学生運動」は多少経験しましたが、子育ての時期にも、その後中高生と関わる仕事をしていた時にも、再び戦争の足音が聞こえてくるなどとは夢にも思いませんでした。しかし、孫が成長するにしたがって、日本の政治に危険を感じるようになりました。「無言館」と出会ったのは、ちょうどそのような時でした。

東京美術学校在学中に学徒出陣し、フィリピンで頭部貫通銃創のため 23 歳で戦死した義母の弟の作品が、「無言館」に展示されており、その後も作品数点をお預かりいただいたことから、「無言館」に関わるようになりました。

彼は、召集が決まると一晩で自画像を描き上げ、「葬儀にはこの絵を使ってください」と言い残して出征し、戦死が伝えられても「靖国の母」として母親は涙を見せることが許されなかったことを知り、「無言館」の作品に隠されているそれぞれの画学生と家族の思いを調べるうちに、戦後も消えることのない苦しみ・悲しみを多くの人に知らせたくなりました。

あちこちで「無言館」を紹介させていただきましたが、「平和教育」講演会として「無言館」の作品を通して中学生や高校生にお話しする機会が何度かありました。

画学生の作品には愛する家族が描かれていますが、「息子が戦死しても、“靖国の母”は泣くことも許されなかった」、「遺骨も戻らず、息子や夫が描いた絵だけが生きた証だった」、「天皇陛下のために死ぬのですから悲しんではいけませんと遺書が遺されている」など、戦争の不条理と残酷さを伝えると、目を真っ赤にして聴いてくれました。

最後に「井上ひさし訳の日本国憲法前文と第９条」をみんなで声を合わせて読みました。

「心を尽くして話し合い、力を合わせるなら必ず戦（いくさ）はいらなくなる。私たちはそのようにかたく覚悟を決めたのだ。私たちは、代わりに国会へ送った人たちに二度と戦（いくさ）をしないようにとしっかりとことづけることにした。どんなもめごとも筋道をたどってよく考えてことばの力を尽くせば必ずしずまると信じるからである。」　このことを心に刻み、対話で橋を架ける人になってほしいと伝えたいです。

ここ宝塚は、手塚治虫さんが約 20 年過ごした場所です。少年時代を戦時下で過ごしたために、「戦争と平和」をテーマにして漫画を描いて、平和を守ろうとした決意を感じます。

そして、「戦後憲法で保障された表現の自由がいつの間にか風化し、政府がキナくさい方向に向かおうとしているので、**子どもたちのために大人がそれを阻止しなければならないし、子ども自身がそれを拒否するような人間に育てなければならない。命あるすべての物を戦争の破壊と悲惨から守るのだという信念を子どもに植え付ける教育が必要です**」ということばを遺されています。

戦争を知らない世代に、「対話を大切に、戦争にならないように努力してほしい！」と伝えたい！

子どもの本で平和をつくる 終

多湖敬子（たごけいこ）

ひばりに

詩：内田麟太郎

絵：うえだまこと

出版社：アリス館

価格：￥1300+税

ぼくには　ことばがない
きみに　かける　ことばがない
ぼくは　ただ　すわるしかない
うつむく　きみの　となりに
いや　ぼくは　たんぽぽに　なろう
きみの　となりに　さく
いや　たんぽぽのわたげになろう
きみが　そらへ　とばす
・・・
そして　とばされながら　ひばりに　はなそう
うつむいていた　きみが　かおをあげ
ぼくを　そらへ　ふいたことを
・・・

（本文より）

この絵本にある詩は、東日本大震災を受けて 2011 年に『日本児童文学』に掲載された詩です。
震災にあった子どもたちに向けて書かれた詩ですが、悲しみを抱えたすべての人の心に届くと思います。

作詩の内田麟太郎さん、絵を描かれたうえだまこと（植田真)さんが次のように書いておられます。

大震災にあった子どもをはげます詩。そんな思い上がった詩は書けませんでした。
でもわたしの気持ちはつたえたくて、詩を書けない詩を書きはじめました。
あなたのところへも、小さな風がとどきますように。　内田麟太郎（あとがきより）

生きていると、色々なことが起こります。その都度、それを乗り越えていくというのは、なかなか大変なことです。この絵本を手に取ってくれた方が、すこしでも軽やかな気持ちになってくれることができたらと、やわらかく親しみの持てる絵を描こうと思いました。　植田真（絵本ナビのサイトより）

未曽有の天災である東日本大震災、津波。人災である福島第一原発事故から 12 年。いまだに故郷へ帰れずに苦しんでいる人たちがいます。新型コロナウイルス感染拡大から 3 年余り。人とのつながりが希薄になり孤独を感じている人がいます。ロシアのウクライナ侵攻によって生活が変わってしまった人がいます。自死を選んだ小中高生が過去最多とニュースで報じられていました。

さまざまな要因によりひとりでいる人に、かける言葉はありますか？息苦しさ生き辛さをかかえている人に、かける言葉はありますか？「一緒に頑張ろう」ではなく「ただ、そばにいるよ」と言ってくれる誰か、傍らにそっと咲くたんぽぽのような、たんぽぽの綿毛のような誰かが、あなたにはいますか？
この絵本は声高に何かを伝えるというより、そっと寄り添ってくれる絵本です。

子どもと共に平和を考えるよりどころとなる絵本が、時として大人の心に刺さり、勇気づけられます。
この連載が、絵本に目を向けていただけるきっかけになっていたとしたら嬉しく思います。一年間、
読んでくださって、ありがとうございました。

★個人の Instagram で絵本のことを発信しています。 矢車菊の絵本日和　@centaurea_kei

アフガニスタン人がつくった支援団体 JASA「日本アフガニスタン支援の会」（ Japan Afghanistan Support Association ）、いよいよ活動を本格化！！

シナピス事務局　ビスカルド篤子

ロキアさん一家がアフガニスタンから避難してきて１年。ロキアさんは、シナピス関東スタッフとして、義兄のイマミ・モハマド・ユノスさんとともに、アフガニスタン人の社会生活を支援しています。ユノスさんは 30 年間にわたり、困っている同胞の相談に乗り、当事者に付き添って行政などにつなぐ支援を続けてきましたが、個人が動いても日本人に相手にされず苦労の連続だったため、団体を作る決意をしました。

カリタスジャパンとシナピスが後押しして JASA 設立

アフガニスタン人による独立した団体を日本の中で作るには、どうしても日本人の助けが必要です。ユノスさんたちは日本人の仲間を集め団体設立に向けて動き出しました。立ち上げに必要な資金をカリタスジャパンが援助してくださり、2023 年明けに活動を始められるところまで漕ぎつけました。夜勤の仕事を抱えるユノスさんに代わって、シナピス専従スタッフのロキアさんが日本人から手ほどきを受けて事務局的役割を担っています。

3 月 21 日のお正月にキックオフ

この日はイスラム歴のお正月。会場となった埼玉県三郷市の公民館に 100 人以上のアフガニスタン人が集まり、盛大に新年を祝いました。その中でユノスさんが JASA 設立の趣旨を説明すると、会場の皆は盛大な拍手で賛同してくれました。その後、アフガニスタン料理がふるまわれ、みんなでゲーム遊びをしたりして、楽しい正月の宴が続きました。

はじける女性たち

遊びが一段落すると、目の覚めるような美しい衣装を身にまとった女性たちがホールに集まってきました。そして輪になって伝統音楽に合わせて踊り出しました。気づくと男性たちが誰もいないので、食堂と台所へ行ってみると、男性たちは皆せっせと片づけをしているのです。ユノスさんは「一年中、殆ど楽しみのない女性たちがこの日だけは思い切り遊べるように」との願いを込めて、男性たちに呼びかけて片付けを引き受けることにしたのだそうです。「わしゃ生まれて初めて洗い物をしているぞ」と言いながら豪快に笑う御仁もいて、誰もが楽しそうに生き生きと掃除をしていました。

伝統音楽に合わせて手拍子をしながら老いも若きもはじけて踊る女性たち。

アフガニスタン人が主体となって活動を始めた JASA。

日本社会で平和に幸せに生きてほしいとの願いを込めて私はずっと拍手を送り続けました。

障がい者委員会より

メタファー(隠喩)なのか

宮永久人（みやながひさと）

2021年9月5日の主日の福音はマルコ福音書の「エッファタ！」の箇所（マルコ7・31-37）だった。この箇所を多くの司祭たちは、ここの「ろう者」とは不信仰から信仰へと導かれた者たちのことだと抽象的に解釈してしまう。

同日付のカトリック新聞のN師の解説もその線上にある。このなかで師は、「『耳が聞こえず、口が回らない』とは、もちろん抽象的な意味」であり、これは「心の耳でキリストのことをしっかりと聞き取り、その愛を受け止め、心の口で真摯な信仰告白をすること」であると言われている。

また、N師は過日3月19日の四旬節第四主日の福音ヨハネ9章の盲人の癒しの箇所についても、目が見えるようになることを回心して神が見えるようになることだと解釈し、目が見えないことを霊的盲目=不信仰の例えとしか捉えていない。N師の解釈には聖書学にもとづく歴史的知見が見過ごされている。私には師が障害者の現実をふまえて言われているようには思えない。先述の箇所を含めたマルコ福音書をはじめとする共観福音書の癒しの箇所では、今日の医学や人権の視点からすると障害者・病者や女性に対する偏見に満ちたレビ記の汚穢・清浄規定により、それらの人々への社会的差別が猖獗を極めていたこと、そして主がこれらの人々とじかに向き合われ、その律法を遵守しようとするファリサイ派を厳しく批判されたことこそが読み込まれるべきだろう。

これは単にN師のみの解釈ではなく、教会がこの回心の時期にこの箇所を読むように指定しているからこうなるのであろう。このヨハネの箇所では、「神の栄光」とは生来の盲人が病を癒されることにとどまらず、この人が主を信じるようになったことであることが強調され、見えない状態（闇）から見える状態（光）への移行が語られており、障害者のメタファー（隠喩）化の最たるものであると言える。

しかし、このようなメタファー化は眼前にいる障害者・病者の実存を見落とす結果となる。障害者が現実に抱えている苦悩や希求が見えなくなり、その主体性が見落とされてしまうのだ。さらに、これらの記述に主の愛を感じ、希望を寄せて生きている障害者・病者の思いを打ち砕いてしまう。

聖書は一貫して神の創造と救いの歴史を説いている。この救いの歴史に基づく見方（救済史観）に即して障害者の主体性の回復に重点をおいた現代的な解釈がなされるべきである。そもそもあらゆる人権思想の源はこのキリスト教の救済史観であり、解放の神学もこれに根差しているはずである。この救済史観にこそ障害の福音モデルの基礎があると思う。

私は司祭方ひとりひとりに、教会から外に出て、病気の人を見舞い、障害者をはじめとする弱い人々に寄り添うという主のなさったことを、絶え間なく実践していただき、世俗との関わりによる現実的な経験にもとづく感性を育んでいただきたいと願っている。私たちは多くの修道会がその伝統のもとに、社会事業のなかでそれらの人びとに関わってきたことを知っている。その上で、障害者・病者に主体性を置いた聖書解釈をしてほしい。

要約筆記学習会へのお誘い

井上千寿代（いのうえちずよ）

みなさん、「要約筆記」という活動をご存じですか？

わたしは、３年前に、宝塚で働くことになって初めて、「要約筆記」のグループに出会いました。約３０年近く日本を離れていたので、日本の世界が、より人間を大事にしようとしている変化に驚きました。特に、テレビのニュースに手話が組みこまれているのを見て感じました。宝塚教会で、久しぶりに出会った従兄が、わたしの挨拶が全く聞きとれない状態になっていました。それがきっかけで、ミサや、研修会などの集まりで、奉仕しておられる“エッファタ！”という「要約筆記」のグループのことを知りました。

「エッファタ」というのは、”ひろがる””つながる”という意味です。わたしは、聞こえない・聞こえにくい方々には、手話のみが交流の手段だと思っていましたが、ミサの説教や、講演会の話も、パソコンを使って、スクリーンに大きく映し出し、手話と共に、文字にして、よりはっきりと、伝えることができるのです。私にとっても、新しい世界がひらかれました。

マルコ福音書７章に、イエスが耳の聞こえない人をいやされたとき、「天を仰いで嘆息し、『エフェッタ』と仰せになった。これは『開け』という意味である。すると直ちに耳が開かれた」とあります。

このコンピューターの時代にこそ、要約筆記の活用ができるのだと、わたしは、感動を覚えました。聞こえない・耳の聞こえにくい人々の世界を、少しでも広く開いていくお手伝いをご一緒にしませんか!! !! !!　わたしもまだ初心者です。この“エッファタ！”のグループで、暖かく、楽しく勉強しています。皆さんの持っておられるちからを生かしながら、共に、暖かい世界を広げていきましょう。ご連絡をお待ちしています。

“エッファタ！”(要約筆記)学習会

毎月　第二水曜日　10 時から 12 時　　於:カトリック大阪教区事務局会議室
問い合わせ先:カトリック大阪大司教区　障がい者委員会
dis@osaka.catholic.jp

平和を目指してともに歩もう

「剣を取る者は皆、剣で滅びる」（マタイ 26:52）イエス様に倣って、暴力に打ち勝ちながら平和を目指してともに歩むために、この一年間、ゆるしと対話を大切にしていきましょう。

社会福音化部部門長　酒井俊弘補佐司教

少しずつ、教会活動が再開されています。各地区で開催された学習会や講演会などの様子をご紹介します。

学習会　大阪北地区社会活動委員会　学習会

カトリック門真教会　小野幸治（おのこうじ）

12 月定例会時に、カトリック今市教会信徒で、92 歳になられた今でも元気に信仰生活を送り、奉仕・活躍されている三島克己（みしまかつみ）さんを講師にお招きし、学習会を行いました。戦前・戦中・戦後の激動時代を体験された三島さんのお話から、戦争のもたらす悲惨さと平和の尊さなどを学びました。講演内容は二つに分かれ、前半は戦前日本の戦争に至った歴史的事実が、後半はキリスト教の信仰に導かれ時代を歩んだ体験が話されました。

前半の歴史的経過のなかでは、普段私たちがなかなか知ることの少ない、様々な歴史事実が詳細に語られ、「何故、そしてどのように」日本が破滅に向かう戦争に突き進んでいったのかが説得的に語られました。“戦争の最初の犠牲者は「真実」だ”と言われます。過去の事実を、私達がしっかりとした歴史の記憶として留め置かなければ、「二度と過ちを繰り返さない」という決意も揺らぐことになります。

当時の様子を語る三島克己さん（中央右）

三島さんのお話で二つのことが強く印象に残りました。

一つ目はご祖父様が日露戦争に従軍し、二百三高地の戦いを経験されたことです。日清・日露戦争は戦前日本の輝かしい戦績として称賛され、軍部の誇りともなりました。しかし実際に戦闘に参加した人びとは無残に殺され、戦友の屍を乗り越えて戦う悲惨さを痛感しました。「こんな戦争は絶対にしてはいけない」ことを、繰り返し祖父から聞いたという三島さんのお話からは、歴史の表面にあるものと深層の人びとの思いとのギャップを感じました。

二つ目は、大阪空襲時一緒に逃げた学友が、焼夷弾の直撃を受けて死亡した 1945 年 6 月 7 日という日を深く胸に刻み、爾来この日を同窓会にしていったというお話です。戦争は多くの未来ある若人を死に追いやるということ、そのことを忘れまいとする姿勢は学ぶべきであり、こうした貴重なお話を聞くことができることに、口述歴史の尊さがあります。

後半は、三島さん自身の信仰との関りも含めて体験されたことが話されました。中卒で国鉄に運転手として就職されたものの、「行政機関の職員の定員に関する法律」により分限免職されてしまいます。乗務中、交代駅でない駅で交代運転手が乗ってきて、職場へ帰ったら、区長のところへ行ってくれと言われ、電車区では区長から分限免職辞令が渡されます。突然渡されたという分限免職通知書は、任命権者の名も記さず公印も押印しない、ただの紙切れであったという説明から、当時の政府の非人間性が伝わってきました。こうしたことは、当事者以外からは聞き得ない貴重な証言です。また新憲法制定を体験され「各国憲法は、その一つ前の政治体制・時代に対する厳しい怒り、痛恨の念の反省に伴って制定される」という言葉を紹介し、軽々しい改正論議に警鐘を鳴らしました。

報告したいことは他に沢山ありますが、字数の関係から省略せざるを得ません。できれば当日学習会に三島さんが用意された資料に目を通すことだけでも、貴重な証言として受け止めることは可能です。今市教会に問い合わせて三島さんにお尋ねすれば、喜んでご提供いただけると思います。平和の語り部である三島さんの講義に参加できたことを主に感謝して、擱筆します。

講演会　シナピスこども基金　こどもの権利を知るキャンペーン協賛

「在留資格のない外国ルーツの子ども達の生の声を聴き、未来を考える」

カトリック仁川教会　社会活動委員会

２月 12 日（日）、標記のテーマで講演会を開催し、約 70 人が参加。
講師は、日本で生まれ育ちながら「在留資格」のない「仮放免」状態の M さん（大学３回生）と弟の S さん（大学１回生）、そして後見人のビスカルド篤子さん。
「仮放免」というのは、一時的に収容を停止されている状況で、住民票がなく、仕事をすることも健康保険に入ることもできず、移動の自由もないなど、基本的人権が全て奪われている状態のこと。

M さんのことばに耳を傾ける参加者

二人は圧政状態のペルーから日本に逃れてきた両親から生まれ、父親が入管に収容され、その後「仮放免」となり、ある日突然ペルーへ強制送還された体験を持つ。

S さんは、父親を失ったショックと強制送還への恐怖や学校でのいじめで、将来への希望を失くし、学力も低下したが、真摯に向き合ってくれた担任の先生に出会い、志望高校に入ることができ、将来の「夢」も生まれた。「困っている人を支えられる教師になりたい」

と教育学部に入学し、頑張っている。
就職活動中の M さんは、「故郷・日本で働き自立したい」と願いながら、「就職活動は許されても、就職は許されない現実」に苦しんでいる。しかし、多くの人に支えられていることを思い、「諦めずに、なりたい自分になれるように」歩き出している。
頑張っている彼らに“頑張って！”ではなく、人権に配慮できる社会にするために頑張らないといけないのは私たちだ。
彼らが、故郷・日本で在留資格を取り、強制送還されないために！

上映会

映画「ワタシタチハ　ニンゲンダ！」

姫路教会　S.N

昨年、”社会活動委員のつどい”の後に上映された「ワタシタチハ　ニンゲンダ！」という映画を観て、私たちの住んでいる平和な日本でこのような差別、迫害が実際に起こっているのかと、大きな衝撃を受けました。その時に自分が感じた思いや疑問、問題意識を多くの人にも知ってほしい、とコロナウイルス感染の防止策を取りながらこの映画会を開催しました。
2 月 18 日(土)13 時より姫路教会ザビエル館にて約 50 人の方が集まり映画を鑑賞し、上映後、短い時間でしたが分かち合いの時間をもちました。この問題について祈っていくことが大切である、という意見と共に祈りだけでなくアクションを起こしていくことが今、必要なことではないか。また私たちの行動が本人や関係する人たちの小さな心の支えになるのではないか、とさまざまな感想、意見を聞くことが出来ました。最後に通常国会に再提出されている、出入国管理及び難民認定法等を改正する法律案の採択に反対し、廃案を求める署名運動を呼びかけていただき上映会を終わりました。

「ワタシタチハ　ニンゲンダ」上映会

この映画を観た人たちが問題意識をもってそれぞれの場所でひろげていくこと、コロナ禍のため活動が止まっていたけれどまた活動が動き出すきっかけになればと思います。
上映後多くの人は何か私たちにできる手助けはないかと思ったと思います。実際、姫路教会でも何か行動を起こしましょうと声をかけてくださる方がありました。
世界人権宣言は「すべての人間は生まれながらにして自由であり、かつ尊厳と権利とについて平等である」とうたっていますが、果たして日本において外国人の人権はどれほど尊重されているでしょうか。映画の最後に「私たちは動物ではない。私たちは人間だ！」と訴えていた映像が今も心に焼きついています。

※各報告の詳細はシナピスニュース４月号に掲載します。併せてご覧ください。

「二度と過ちを繰り返してはならない」
～日本の歴史的事実を追う～

今市教会　三島克己

日本は明治維新によって近代国家への道を歩み出し、列強に並ぶために大陸進出を考え、国民に対外危機の意識を扇動しました。第1次世界大戦戦後の好景気もつかの間、関東大震災、世界大恐慌、によって日本の政治・経済は疲弊し、昭和7年五・一五事件、昭和11年二・二六事件（クーデター）は鎮圧・粛清されましたが、軍部はこの事件を足場に政治支配権を確立し、日本の国を戦争へ、戦争へと運んでいきました。

満州を占領し、清朝の廃帝・溥儀を皇帝に立て満州国を建国しましたが、国際連盟の反対を受けて、日本は国際連盟を脱退し孤立を深めました。1937 年 7 月中国と戦火を開き、全面戦争への火ぶたを切りました。国家総動員法制定、労働運動弾圧、自由主義的学者を追放し、1940 年ドイツ・イタリアとの三国同盟締結により日米関係は決定的に悪化。1941 年 10 月東条内閣が登場、12 月 8 日真珠湾奇襲攻撃で太平洋戦争に突入しました。翌年6月、ミッドウエイ攻略作戦に失敗し、南太平洋諸島は日本本土への爆撃機攻撃の基地となり、1945 年3月以降、連日、日本各地で米軍の長距離爆撃機B29の攻撃にさらされました。米軍は、1945 年4月、沖縄本島に上陸、県民4人に1人が死亡しました。広島（8月6日）、長崎（8月9日）の原子爆弾投下。8月 15 日正午、敗戦の玉音放送。中学3年生の時でした。私は、不思議に無念の思いがわきませんでした。10月に軍隊に入隊が決まっていましたので、「助かった」という思いでした。

連合国と日本との講和条約は、朝鮮動乱の激しい国際情勢の中、米英共同提案（単独講和）によって1951 年9月8日調印されました。この調印の数時間後、日米両国全権によって「日米安全保障条約」が調印されました。

この歴史の中で、わたしが生きた道をお話しします。

少年の頃、日露戦争 203 高地の激戦に従軍した祖父の話を何度も聞きました。戦友の屍を越えて戦い、激戦に勝利した話を想像されるでしょうけれど「こんな無謀な戦争は絶対にしてはならない」という平和の尊さを教えられました。

戦後、農地改革によりにわか百姓を始めました。父が、過労で大病をし、中学4年の私と、中学1年の弟で百姓をしました。さらに新聞配達で家計を支えました。学業・百姓・新聞配達、よく頑張ったと述懐しています。進学断念、1948 年国鉄就職。1年半の勤続で国鉄を「国家公務員行政機関職員定員法」により分限免職（免職辞令は、B6判ザラ紙、任命権者氏名・捺印もなし）。どん底の人生。街をさまよいます。香里教会に誘われて、洗礼を授かり救われました。

1951 年地下鉄に転職、支えられて労働運動の道を歩むこととなりました。体験した平和運動は紙面の関係で省略しますが、1954 年アメリカのビキニ環礁水爆実験・第5福竜丸放射能被ばく事件によって起こされた原水爆禁止運動に参加。1960 年日米安全保障条約改定反対闘争（6月 15 日国会議事堂南門で東大学生圧殺事件、現場に居合わせ）。1968 年 原子力空母エンタープライズ佐世保寄港反対闘争へ。1969 年沖縄返還闘争・沖縄へ。1981 年2月 25 日広島平和公園で、ヨハネ・パウロ2世教皇の『平和アピール』に感激し平和運動を続けてきました。

いま政府は、ロシアのウクライナ侵攻や、北朝鮮・中国との緊張を盾に有事に対する社会不安をあおって、「安保関連三文書」を閣議決定し、2023 年度から5年間現行計画の1.5倍以上となる 43 兆円の防衛費を、国家予算に増額するとしています。アメリカとの「核共有を進めるべきだ」とか、「緊急事態条項」の制定、「敵基地攻撃能力保有」などを持ち出し、「今こそ憲法改正に取り組まなければならない」と世論をリードしています。憲法改正には、国民投票があるからなどと、気楽なことは言っておれません。今こそ、真剣に、「憲法改悪反対」「来た道に戻ってしまいます」と、強く訴えなければなりません。

講演会「在留資格のない外国ルーツの子ども達の生の声を聴き、未来を考える」報告

カトリック仁川教会　社会活動委員会

２月 12 日（日）の９時ミサ後、標記のテーマで講演会を開催し、約 70 人が姉の M さん（大学３回生）と弟の S さん（大学１回生）、そして後見人であるビスカルド篤子さんの生の声に耳を傾けました。

まず、日本で生まれ育った彼らが何故「在留資格」の無い**「仮放免」**状態にあるのか、**「仮放免」**とはどのような状況なのかをビスカルドさんが説明されました。

「仮放免」というのは、一時的に収容を停止されている状況で、基本的人権は全て奪われている状態です。住民票はなく、仕事に就くこともアルバイトもできず、健康保険に入ることも、許可なく都道府県をまたぐ移動も禁止されています。

ペルーの圧政から逃れて日本に入国した両親から、二人は生まれました。景気の低迷から日本政府が強制送還に舵を切ったことで、父親は入管に収容され、その後**「仮放免」**となり、ある日突然父親は家族にも知らされることなく体一つでペルーへ強制送還されてしまいました。

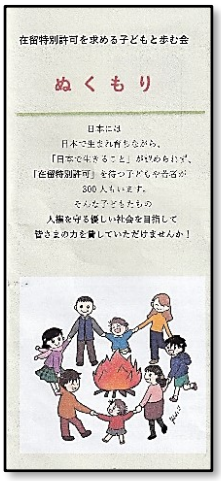
幼かった S さんは、父親を失ったショックと自分もいつ強制送還されるかわからないという恐怖や学校でのいじめから、将来への希望も勉強への意欲も失いました。しかし、担任の先生が真摯に向き合って尽力してくださったおかげで、志望高校に入ることができ、将来の「夢」も生まれました。「困っている人を支える教師になりたい」と教育学部で頑張っています。

目下、就職活動中の M さんは、「故郷である日本で働き、母を楽にしてあげたい」と願いながらも、「就職活動は許されるのに、就職は許されない現実」に苦しんでいます。しかし、多くの人に支えられていることを思い、全国にいる同じような境遇の 300 人に「仕方ないと諦めてほしくない！」と述べ、将来に向けて専門以外の勉強にも意欲を見せ「なりたい自分になれるよう」に、地に足をつけて歩き始めています。

ビスカルドさん：彼らに向かって「頑張って！」ということばをよく聴きますが、彼らは頑張っています。**人権意識のある社会にするために頑張らないといけないのは私たちです。新しい入管法案が可決したら、全員強制送還になります。緊急に「入管法改悪法案に反対！署名」をお願いします。**

最後に、**「在留特別許可を求める子どもと歩む会　ぬくもり」**が設立した、在留資格を持たない大学生のための、日本で初めての奨学基金へのご理解・ご協力をお願いして講演会を終えました。また、講演会後に行った**「M さん、S さん応援募金」**に、たくさんの方が協力してくださいました。
その後、仁川教会の信徒館「フランシス館」に場所を移しフランクで有意義な分かち合いが行われました。

＊「当事者の生の声を聴き、実態を知ることで、これまで知らずにいた責任を感じました」
＊「知ることの大切さを感じた講演会でした」
＊「みんなの人権意識が高くなって人権意識が高い政治家を選び、日本を変えなければ恥ずかしい！」などの意見が寄せられました。



M さん、S さんは、神父様と参加者の皆さんに心から感謝し、笑顔で帰って行かれました。多くの皆さまの様々なご協力に心より感謝いたします。

ドキュメンタリー映画上映会

姫路地区社会活動委員会　坂本規子（さかもとのりこ）

姫路地区社会活動委員会は２月 18 日午後１時から「ワタシタチハ　ニンゲンダ！」というドキュメンタリー映画の上映会を開催しました。コロナウィルス感染症の防止対策を取りながらの集まりでしたが、約 50 人の方たちが参加して下さいました。シナピス事務局のビスカルド篤子さんの挨拶と映画の紹介から始まり、上映後、短い分かち合いの時間をもちました。

映画は 1910 年、日本による朝鮮半島の統治が始まった時代の映像から始まりました。創氏改名、朝鮮語の禁止と日本語教育、強制連行、徴兵制など、過酷を極めた時代ということが伝わりました。1945 年、日本の敗戦により 36 年間の統治から解放されましたが日本本土を占領した GHQ の政策により外国人の個人情報の登録が義務付けられました。朝鮮戦争が勃発し出入国管理令が制定され、これがその後の外国人の出入国管理政策の原型となったそうです。溢れる難民問題の解決が国際社会に求められ、各国が協力して難民の保護救済に立ちあがるなか、日本は移民や難民の受け入れをなかなか認めようとせず国際的な批判を浴びたため、難民条約に加盟しましたが、難民認定率は今も世界の中でも非常に低いものです。外国人労働者に対しては低賃金、長時間労働、暴行、不当解雇等、人権侵害が頻発しています。内乱、戦争などにより多くの外国人が日本に逃れて来ていますが、難民認定は厳しく在留を認められなければ「不法滞在者」の立場となり入管に収容される、入管の収容所で非人間的な扱いをされることも多く、強制送還されることもあるそうです。送還させられれば殺されると恐怖のあまりに自殺する人もいると聞きます。昨今ニュースで報道されている名古屋入管に収容されていたスリランカの女性は日本の子どもに英語を教えたいと思い来日してきましたが、途中在留資格を失い不法残留で収容されたそうです。恐怖のあまり食事もとれず体重は激減して、病気になっても受診も救急搬送もしてもらえず亡くなられました。遺族たちは事件の真相解明を求めて今も闘っておられます。

上映後、これが平和な日本で実際に起こっている出来事なのかと大きな衝撃を受けました。分かち合いの時、この問題のために祈ることが大切、祈りと共に行動を起こそう、と言う意見が出ていました。この映画を観た人たちが問題意識をもってそれぞれの場所で伝えていくことも大事なことだと思います。コロナウィルス感染症拡大により、社会活動の自粛を余儀なくされていた私たちが、また活動していくきっかけになればと思います。また、上映後、多くの人が何か私たちにできる手助けはないかと考えたと思います。実際、姫路教会でも何か行動を起こしましょうと声をかけて下さる方があったことは大きな収穫でした。

世界人権宣言は「すべての人間は生まれながらにして自由であり、かつ尊厳と権利とについて平等である」とうたっていますが、果たして日本において外国人の人権はどれほど尊重されているでしょうか。映画の最後に当事者たちが「私たちは動物ではない。私たちは人間だ！」と訴えていた映像が今も心に残っています。

ちょっと　聞いて

仁川教会社会活動委員会　ペンネーム　西宮　立子

毎日朝夕１時間ずつ、１日も欠かさず西宮市の国道 171 号戦で、手書きの看板を掲げてスタンディングをしている吉村 平さんという 83 歳のオジサンがいるんですよ！

正直言って、芸術的に美しい看板ではないのですが、2018 年 12 月 14 日から、暑い日も寒い日も毎日、通勤者や中学生・高校生に「おはよう」「お帰り」と大きな声で挨拶されています。最初の頃は、嫌がらせで看板を蹴られたり、警察に通報されたり、「邪魔や、どけ！」と悪態をつかれたりしたそうですが、最近は顔なじみになっての挨拶が当たり前になり、「風邪ひかないでくださいね」と声をかけてくれたり、警察官も会釈してくれるようになったそうですよ。

なぜスタンディングを始めたのですか？とお聞きしました。

「辺野古 米軍基地建設」のための埋め立ての賛否を問う県民投票が行われ、県民の 72.2%の人が反対したにもかかわらず、それを無視して、2018 年 12 月 14 日に土砂搬入を再開しました。そのことに憤りを感じ、「これは沖縄だけの問題ではなく、日本全体の問題だ」と考え、土砂搬入が始められた日から、沖縄の人たちに連帯して、手書きの看板を掲げ、スタンディングを始めました。その日から今日まで１日も欠かさず、スタンディングをしています。

どうして、そんなに「平和運動」に積極的なんですか？とお聞きしました。

1940 年生まれの私は、子どもの頃の悲惨な戦争体験と父親の教育が「平和運動」に向かわせているのだと思います。戦争末期、すぐ近くの航空機の工場（現在の阪神競馬場）に徴用で送り込まれる新兵の隊列や空を舞う 200 機以上の B29 の轟音、空襲で火の海になった工場地帯等を見ました。この様な光景は二度と見たくないし、子どもや孫の世代に二度と体験させたくありません。また、「自分の意見を持て」と教えてくれた父親の影響も大きいです。子どもの頃、新聞の「社会問題」のコラムを読ませて、私に「どう思うか」と問い、意見を言わせるのでした。「自分で考え、意見を持つ習慣」をつけてくれた父親の教育には感謝しています。

「ウクライナ支援の 10 円募金」をされたそうですね、とお尋ねしました。

「ウクライナ支援の 10 円募金箱」を置いたら、「10 円やったらボクも入れる！」と小学生も入れてくれたり、道行く人がカンパをしてくれました。集まった募金は市役所で、職員の方と一緒に中身を確認し、市役所に託しました。少しずつですが、「対話による平和作り」の広がりを実感しています。

「ピース９の会」を立ち上げられたそうですね？とお尋ねしました。

知り合いのカトリック教会の方から、**「みんな集まれ、平和を求めるひと！　～今こそ大切な平和憲法～」**（２月 25 日）という集いにお誘いを受け、松浦悟郎司教さんの話を聴いて、胸にストンと落ちたんです。現在の大軍拡を止め、辺野古の埋め立てを止めるために、身体の続く限り頑張ろうと、勇気をいただきました。早速、妻と一緒に立ち上げました。

そうや、ちょっとぐらいイヤなことあっても、吉村さんを思い出して頑張ろう！平和は挨拶からや！

3 月の祈りの集い

第 18 回シナピス主催「オンライン祈りの集い～世界平和のために祈る～」を 3 月 9 日（木）に行いました。3 月のテーマは「東日本大震災被災者のために祈る」、イエズス会 片柳（かたやなぎ） 弘史（ひろし）神父にメッセージをお願いしました。

震災当時、片柳神父は福島県にある桜の聖母短期大学で講義をされていたことから、福島の復興にずっと携わって来られました。沢山の写真を使い震災当初の様子から現在までを詳しく説明して下さいました。

なかでも、当時神戸の垂水教会主任司祭だった片柳神父は「ふっこうの架け橋」（※福島のふくと神戸のこうでふっこう）というこども保養プログラムを立ち上げ、放射能汚染に不安を感じて家の中に閉じこもっていた福島のこども達を神戸に招待し、神戸のこども達と野外でのびのびと過ごす交流プログラムを企画されました。このプログラムは 10 年間続きました。現在も交流は続き、去年神戸から福島へスタディーツアーが行われました。

14 年経った現在でも、行き場が無い汚染土が黒い袋に詰め込まれ塀で囲われた中に積み上げられています。手付かずだった倒壊家屋が去年 3 月の地震でさらに崩れ危険な状態であること、また原子炉格納容器の内部にある危険物質をスプーン 1 杯分も取り出せていない原発をどのように廃炉にしていくのか、原発処理水の放出をどうするのかなど、まだまだ復興したとは言えない現状がある事がよく分かりました。

最後に、「現実を知らずにこのまま進んでもいいのか。忘れない、現状を知ること、そして人間の限界に直面する。無力でどうしていいか分からない、神に祈らずにはおれない。一番良い道を神様、あたえて下さいと祈りましょう」と仰いました。現状の報道が少なくなり、「復興」した街の様子を多く見るようになってきましたが、元の街並みに戻るにはまだまだ先が長いことがよく分かりました。引き継き被災地の方々を思いながら神に祈ることが必要であると実感する集いでした。

次回は 4 月 13 日（木）20 時半から
テーマ：「こどもたちのために祈る」
お話：北川大介神父（サレジオ会）
一緒に 30 分間祈りを捧げませんか。

Zoom 参加↓↓↓
ID: 761 071 2034
パスコード:123456

シナピスホーム便り

山田（やまだ） 直保子（なおこ）

少し暖かくなってきましたね。桜も開花し、ちらほらと咲いているのを見かけるととてもほっこりします。外を歩いていて、マスクを外すと、春の匂いがします。

3 月の土曜日、ホームの近くにあるフランシスコ会の保育園の卒業式後の慰労会にホームでランチをしようと提案して頂きました。

シスターは「スリランカのカレーがとっても美味しいから、うちの職員さんにも食べさせたいの」と嬉しい言葉をかけて頂き、33 人という予約にスリランカ人の N さんは大喜び！

彼女は昔、日本人オーナーの飲食店を間借りして、カレーを出していたという実績もあり、料理はプロの味です。前日から N さんは、買い出しから下準備、備品の購入まで、てきぱき仕切っていきます。一緒に手伝ってくれるのは、彼女とは正反対のゆっくりペースのミャンマー人の C くん。私が至らない為、いつも私のペースにあわせようとしてしまってるけどマイペースの彼は急ぐという事をしません。そんな彼に私がイライラしていると、N さんがすぐ気づき諭されます「なおこさん、大丈夫。たっぷり時間ある。なにも怒る事ない」と。彼女のおおらかな心にいつも救われ、反省し、私も穏やかになれます。

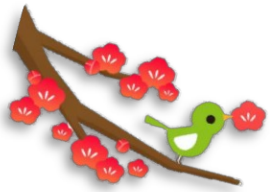
といいつつも、あまり料理をしない C くんは何をしたらいいのかわからず、なおかつ、N さんはあまり指示をしません。自分一人でできるという自負があるからです。私が仕事を見つけ指示していき、きりのいいところで前日作業は終わりました。私たち 3 人ともぐったり。今日はすぐ眠れるねと言いながら帰りました。

翌日の土曜日、元気を取り戻した私たちは、てきぱきと調理開始。C くんも少し要領がわかってきて、これしたらいいですねと自分から動いてくれる事もありました。シナピスのスタッフも手伝いに来てくれて、みんなで仕上げていきます。

　メニューは「スリランカカレー、チキンの丸焼き、ワタラッパン（黒糖のプリン）」
予定時間の少し前に「おなかすいたー！」と続々と職員さんやシスター登場。
お弁当を 11 個用意する段取りでしたが、皆さんが帰る時に持って帰ると勝手に勘違いしていた私のせいで、もう壮絶なバタバタになりましたが、なんとか皆さんに N さんの美味しいカレーを食べていただけました。
初めての大人数のお客様で、色々とご不便おかけしたと思いますが、「美味しかったよ！」と声をかけていただき感謝しかありません。この場を借りてお礼申し上げます。
今回とても印象的だったのは、準備で忙しく疲れているだろうに活き活きと目が輝いている彼女の姿でした。しんどくない？と心配する私にキラキラした目で彼女は「大丈夫。私、忙しいの好き。みんな喜んでくれる。一番嬉しい」と言いました。いつも何か力になれないか？と考えて提案してくださるシスター達。私たちはいつも力をもらって守ってもらっていると実感しています。本当にありがとうございました。

4 月からカフェは水曜日に開催していましたが、土曜日に変更になります !!

　変更を発表してから、一番多い問い合わせが「ランチは毎週になるんですか？」でした。
全て寄付金だけで運営しているので食材費がかかるランチ開催は、今まで通り月一回となります。
あとの土曜日はカフェのみです。
　毎月、月初めにカフェ開催日とランチ開催日をお知らせしますので、どうぞよろしくお願い致します。



みんなのけいじばん

京都暁星高等学校生徒会のみなさん、ありがとう!!

去年に引き続き、今年も京都暁星高等学校生徒会のみなさんからの物資を先生方が運んできてくださいました。

箱一杯のジャガイモ、お米、食品、衛生用品等、シナピス事務所の一番大きなテーブルが一杯になるくらい沢山頂きました。今年も生徒会のみなさんが呼びかけてくださり沢山集まったと聞きました。素晴らしい行動力のみなさんに感謝します。

頂いたものは早速その場にいた難民移住者や、その後シナピスを訪れた人たちで分け合っています。

ジャガイモでコロッケを作ろうかなあと嬉しそうに話す移住者や、久しぶりに顔を見せてくれ「いっぱいある！モッテカエッテいい？ワタシ、これすき！」と笑顔でマヨネーズを手に取る移住者、物資を分け合いながら色んな会話が生まれて楽しいひと時を過ごしました。

なかには去年大根と人参を持ってきてくださったことを覚えていた移住者もいて、また今年も来て下さったことが嬉しいと話してくれました。

生徒会のみなさん、先生方、本当に有難うございました。

受け取りました！
ありがとうございます
♪

◇オンライン講座のご案

オンライン関連企画！

シノダる？2023

毎月１回、Youtube でシノドスの分かち合いの方法を配信。

毎月２回、Zoom でシノドスに関連する聖書の箇所の分かち合いをします。

※参加無料、参加ご希望の方は右記 QR コードから詳細をご確認ください

主催：シノダるチーム
共催：イエズス会司牧センター

「在留特別許可を求める子どもと歩む会ぬくもり」　からお知

在留特別許可を求めるこどもと歩む会「ぬくもり」は、日本で初めての在留資格を持たない大学生のための奨学基金を設立しました。

日本で生まれ育ちながら在留資格がなく、強制送還の対象となる「仮放免」（※）の状態で生活を送っているこどもたちは全国でおよそ 300 人いると言われています。彼らが在留資格を得るまで学業が続けられるよう支援が必要です。詳しくは同封のパンフレットをご覧ください。

※仮放免：在留資格が得られず「非正規滞在」となった外国人に対して、入管が入管収容施設の外での生活を認める制度。

◇映画観賞会のお知らせ◇

池谷薫監督作品「ルンタ」上映会！

日時：4 月 9 日(日)13 時開場、14 時開演

場所：須磨寺 （青葉殿講堂）

入場料：1,000 円(予約不要)

チベットに潜入徹底した非暴力を貫きながら抵抗を諦めないチベット人の気高さを描く。本当の慈悲とは何か。

上映後須磨寺寺務長小池陽人さんと池谷薫監督との人権対談あり。

問合せ先
078-731-0416

「こどもの権利を知る」キャンペーン企画
◇映画鑑賞とお話◇

映画：「さとにきたらええやん」
お話：「こどもの里」館長　壮保共子（しょうほともこ）さん
～こどもは安心して生きる権利があります～

日時：５月７日（日）13 時～15 時半
場所：カトリックなみはや教会（駐車場有）
※入場無料　※マスクの着用をお願いします

主催：カトリックなみはや教会評議会
後援：シナピスこども基金
問合せ：06-6551-6253

◇シナピスより◇

ピアノを教えてくださる方募集中!!

移住者にピアノを教えてくださる方を募集しています。
関心がある方はシナピスまでご連絡ください。

連絡先↓↓

カトリック大阪大司教区社会活動センター・シナピス
TEL: 06-6942-1784　FAX: 06-6920-2203　Email: sinapis@osaka.catholic.jp

シナピス公式

さまざまなお知らせや情報を発信！

友達追加は QR コードから

CATHOLIC_OSAKA_SINAPIS_

活動へのご支援ご協力
よろしくお願いいたします。

郵便振替　00960-7-61419
加入者名　カトリック大阪大司教区シナピス

難民移住移動者支援もよろしくお願いいたします。

支援物資提供のお願い

米、レトルト食品
テレフォンカード、
レトルトご飯、缶詰、油

お電話をお待ちしています！！
☎06-6942-1784

ニュースレター配布停止ご希望の方は
シナピスまでお知らせください。

◀◀◀　HP はこちらから
https://sinapis.osaka.catholic.jp/

あとがき

「いのちの光 3.15 フクシマ」の集いに参加するため 3 月 15 日から福島県南相馬市に行ってきました。地震、津波、原発事故から 12 年。お話を伺った方の中で、当時原発でメンテナンスや設備取り付けなどに従事していた方がおられました。事故直後家族と連絡が取れず、頭をよぎったことは「頼む遠くへ逃げてくれ」でした。そして数日後に再会を果たした時に息子さんが足にしがみつき「パパ、足がある！」と言ったそうです。

生きて会えないかもしれないと思っていた父親が目の前に現れた瞬間、疑いもなく飛び込んでいった息子さんのことを想像しながら、復活したイエスと再会した弟子たちのことが頭をよぎりました。息子さんがどのような思いで父の帰りを待っていたことか。しっかりと抱きしめる父親の足は「いのち」そのものだったに違いありません。

連載「子どもの本で平和をつくる」が今月で終了します。ご執筆くださった多湖敬子さん、1 年間本当にありがとうございました。多湖さんのおっしゃるように、絵本からのメッセージは時として大人の心に刺さります。こどものような心でいのちに向き合えますように。(H)

▽▲▽ シナピスの主な活動 ▽▲▽

◆広報活動
- 教皇メッセージ、司教団メッセージ等社会活動の指針の伝達
- 読者と教会内外の社会活動をつなぐ機関誌としてシナピスニュースを発行

◆大阪教区・社会活動委員会との連携
◆学習会研修会の企画
◆こども基金
世界・日本のこどもたちへの援助
◆カトリック中央協議会との連携
正義と平和協議会、難民移住移動者委員会、カリタス、部落差別人権委員会に委員を派遣
◆人権教育の講師を務めるなど教育機関への働きかけ
◆難民移住移動者支援
難民移住移動者の暮らしやすい社会を目指して

難民移住移動者 相談ダイヤル
☎ 06-6941-4999

アクセス
〒540-0004 大阪市中央区玉造 2-24-22
カトリック大阪大司教区事務局内

●公共交通機関ご利用の場合
JR 森ノ宮駅より　約 1000m
地下鉄中央線森ノ宮 2 番出口より　約 800m
JR 玉造駅より　約 1000m
地下鉄長堀鶴見緑地線玉造 1 番出口より約 800m
●車でお越しの場合
阪神高速 1 3 号東大阪線法円坂出口
法円坂交差点南へ上町を東へ

活動へのご支援ご協力をおねがいします
□郵便振替　00960-7-61419
加入者名　カトリック大阪大司教区シナピス
□三井住友銀行　玉造支店　普通　9401958
カトリック大阪大司教区　シナピス
代表役員　前田万葉
□オンラインはこちら　➡➡➡

カトリック大阪大司教区　社会活動センター
シナピス
Social Action Center of Catholic Archdiocese of Osaka

地上でもっとも小さいといわれている種子、それがシナピス（からし種）です。
イエスは神の愛がすべての人におよび、互いに尊重し合い、愛し合うように願って平和の種をまき、やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると約束しました。

シナピス年間テーマ　平和を目指してともに歩もう

シナピスの風

＊掲載行事はコロナ感染症の影響で延期または中止になることがあります。ご参加の際は連絡先にお問い合わせください。

第 157 号　2023 年4月2日発行

4月の祈り

ウクライナの十字架の道行

四旬節の間に十字架の道行を行いながら、
ウクライナの悲惨な状況を思い起こします。
ミサイルの攻撃に耐えられないで倒れる人々、
自分の子どもの死や負傷を見て
涙を流すお母さんたち、
非人間的な状況の中で神に叫ぶ人々、
十字架を担いで歩いているイエスの姿が見えます。
中には、ベロニカやキレネの人のように
戦争によって苦しんでいる人々に
助けの手を差し延べる人々もいます。
天の父よ、
この戦争の闇を打ち破る平和の光が
一日も早く輝きますように祈ります。
私たちは、平和の実現のために
努力を惜しまない決意を捧げます。
私達の歩みを導いてください。アーメン。

シナピスでは、毎月のお祈りをニュースレターとともにお送りしております。教会で、ご家庭で、日々のお祈りにお使いください。シナピスのホームページからも、ダウンロードしていただけます。

「こどもの権利を知る」キャンペーン企画

◇映画鑑賞とお話◇

映画:「さとにきたらええやん」
お話:「こどもの里」館長　壮保共子（しょうほともこ）さん
～こどもは安心して生きる権利があります～

日時：５月７日（日）13 時～15 時半
場所：カトリックなみはや教会（駐車場有）
※入場無料　※マスクの着用をお願いします

主催:カトリックなみはや教会評議会
後援:シナピスこども基金
問合せ:06-6551-6253

＊シナピスこども基金　キャンペーンとは
1 月 29 日「世界こども助け合いの日」～
5 月 5 日まで＞キャンペーン期間中、こども基金の趣旨に合ったイベントを開催する方がたにこども基金から助成金を出します。
ご応募ください。

在留特別許可を求める子どもと歩む会
ぬくもりからのお知らせ

在留特別許可を求めるこどもと歩む会「ぬくもり」は、日本で初めての在留資格を持たない大学生のための奨学基金を設立しました。

日本で生まれ育ちながら在留資格がなく、強制送還の対象となる「仮放免」（※）の状態で生活を送っているこどもたちは全国でおよそ 300 人いると言われています。彼らが在留資格を得るまで学業が続けられるよう支援が必要です。詳しくは同封のパンフレットをご覧ください。

※仮放免：在留資格が得られず「非正規滞在」となった外国人に対して、入管が入管収容施設の外での生活を認める制度。

オンライン祈りの集い
～世界平和のために祈る～

テーマ:「こどものために祈る」
お話:　北川大介神父(サレジオ会)
4月 13 日(木)
20 時半～(30 分)

Zoom ID＆パスコード(100 名まで参加可)
ミーティング ID：　761 071 2034
パスコード：　123456

シナピスカフェ

変更
水曜➡土曜開催

★カフェ　毎週土曜日
13 時ごろ～16 時ごろ
4 月の開催：1、8、15、22

★ランチ月１回土曜日
4 月 22 日 11 時ごろ～16 時ごろ

＊新型コロナウイルス感染対策のため、人数制限を行っています。
人数把握のため事前にご連絡ください。

シナピスホーム
住所：生野区中川 6 丁目 6-23
☏：080-8940-8847

シナピス工房

2023 年版カタログ Vol.1 ができあがりました。
イエスの生涯を思い起こす四旬節に、またご復活、洗礼式や初聖体のプレゼントにいかがですか。

カタログ

シナピスでは 移住者やボランティアの方々とともにロザリオやカード、雑貨などをつくり皆さまにご提供させていただいています。ご寄付は難民移住移動者の生活支援に役立てられます。どうぞ、ご協力をお願いいたします。

シナピス公式
Instagram･LINE ができました！

さまざまなお知らせや情報を発信！
友達追加は QR コードから ☛

CATHOLIC_OSAKA_SINAPIS_

支援のお願い

おかげさまでパスタ、体温計は沢山のご寄付をいただきました。
日持ちのする食品、油、米、テレホンカード、
そして**レトルトのご飯**などのご支援をお願いいたします。

カトリック大阪大司教区 社会活動センター シナピス
Tel 06-6942-1784　Fax 06-6920-2203
URL: https://sinapis.osaka.catholic.jp/

「点訳版」「音訳」
ご希望の方はシナピスまでお申込み下さい。